

牛尾山台風被害「復旧」報告会と講演

私たちは何ができるのか

ふるさとの景観と史跡を守るために

日時 平成27年9月20日(日)
午後1時30分～4時

会場 小山総合センター (小山小川町36番地)

内容
挨拶 田中祥祐(牛尾山法厳寺住職) 山下氏嗣(大塚消防分団長)
報告 「牛尾山台風18号被害「復旧」の現状と課題」
田村隆弘(ふるさとの会)・湯浅 徹(ふるさとの会)
講演1 「風雨災害に対する住民の備えと対応」
横谷祐史(京都市山科消防署警防課長)
講演2 「牛尾山法厳寺の歴史と寺宝」
鏡山次郎(『音羽の山寺－牛尾観音 法厳寺史－』著者)

主催 ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会(ふるさとの会)
参加費 無料 関心のある方ならどなたでもご参加いただけます。
協力 京都市山科消防署・牛尾山法厳寺・大塚消防分団

会場にて法嚴寺寺宝の展示も

ご住職のご好意で、会場に、ふだんめったには見られない牛尾山法嚴寺の「寺宝」を展示していただくことになりました。報告会の後、ぜひご鑑賞ください。



「懸佛（かけぼとけ）」（2 躰）法嚴寺の中でも最も古いものの一つとされる。専門家の鑑定では13～14世紀頃のものと言われ、懸佛の中でも古いものとされる。



昭和十三年一月十八日付け許可印（警察）が押された法要案内のポスター。「清水寺奥之院 山科牛尾山初観音法要」とあり、当時は「清水寺奥之院」であったことを証明するものの一つ。



大西良慶元法嚴寺住職（清水寺貫主・興福寺住職兼任）が残した、多くの掛軸など。

大西良慶は、大正3年（1914）清水寺貫主となったと同時に法嚴寺住職となり、毎月18日には必ず登山し法要をなした。良慶40歳の時で、昭和15年（1940）に田中忍照（現住職の祖父）に住職を譲るまでの27年間、法嚴寺住職であったため、さまざまな貴重な品物を法嚴寺に残している。（左の掛軸の署名には「興福良慶」とある。）



「法嚴寺縁起」江戸時代初期に作成されたと思われる、法嚴寺にとって最も大切な寺宝の一つ。内容的に、「清水寺縁起」との関連性を覗わせる部分も多く、研究者からは「貴重な史料」との評価を得ている。



* その他の寺宝の展示を予定していますが、お寺側のご都合で、上記の展示品等が変更になる場合もありますが、その節はご容赦下さい。